

■ テクニカル&ファンダメンタルズでドル/円は強気になびきやすい！？

今週 17 日（日本時間の 18 日午前 8 時前）、米政府は知的財産侵害を名目とする制裁関税の第 3 弾を中国に対して 24 日に発動すると発表。これに即座に対応した中国は 24 日に報復関税を発動することを決めている。

少なからぬメディアは「両国のチキンレースは最悪のシナリオに向かっている」、「世界経済の大きな波乱要因になる」などと報じるが、果たしてそうか。「むしろ、互いが互いのとどめを刺す前に適当な処で矛を収めることはできないか必死に探り合っている」と見るのは筆者だけではない。最初は互いに「25%」という数値を掲げていたものの、ここに来て「10%」とか「5%」などという数値が出てきていることが、その一つの証拠と言ってもいいだろう。

もともと米中間選挙のためのくだらないパフォーマンスであることなど中国側も重々承知。だからといって最初からひれ伏したりしたら男が廢る…といった程度のこと。いずれにしても、米中間選挙の日程は、もはやすぐそこまで迫ってきている。選挙が終われば、また別の顔である。

とまれ、足下の市場では米中貿易戦争の影響に対する警戒感が大きく後退してきている。NY ダウ平均は 1 月につけた史上最高値にあと 150 ドルに迫り（19 日高値）、日経平均株価は 2 万 3000 円の壁をクリアに突き抜けた。依然として新興国不安は拭えず、ことに中国人民元や上海総合指数などの行方に不透明感が漂っていることも事実ではあるが、いまのところは一定の下支えも利いている模様であり、全体としてはリスクオンに傾きやすい地合いとなっている。

そんななか、足下のドル/円は一時 112.45 円まで値を上げる場面もあり（19 日）、基本的には強気の流れ。なおも、ドル高であると同時に円高でもあるという状況であるがゆえ、好調な日本株のパフォーマンスからすれば見劣りするが、ここに来てテクニカルに上放れる動きがクリアに見られたことは特筆に値する。

既知のとおり、まず足下のドル/円は一目均衡表の日足「雲」上限をクリアに上抜けてきている。また、2015 年 6 月高値と以降の高値を結ぶレジスタンスライン（トライアングルの上辺）をも、ようやくクリアに上抜けてきた。仮に、このままの流れが月末まで持続すれば、ついに月足・終値で月足「雲」上限（＝現在は 111.87 円）を上抜ける可能性だってある。そのインパクトは相当に大きいだろう。

本日（20 日）行われる自民党総裁選においては安倍首相の 3 選が確実とされており、それはアベノミクス&金融緩和継続で円安要因と見做されやすい。さらに、政策期待で日本株が一段高となれば、それもドル/円の強気材料になりやすい。もちろん、イベントドリブン型の運用主体を日本株やドル/円に対して一旦「事実で売り」となる可能性もあるが、その分はほどなく持ち直すと見ておいていいだろう。

明日（21 日）予定される日米貿易協議においては、ある程度厳しい要求が米国側から突き付けられることにはなるが、それを日本側は一旦持ち帰って再度検討するというながれになるはずで、何らかの結論めいた事柄＝相場が強くなり材料視するものは出て来ないものと思われる。

どのみち、米中間選挙の日程が近づくほど「強硬な米保護主義」の色合いは徐々に薄らいでいき、代わりに追加の景気刺激策に対する期待が盛り上がり行くこととなる。また、市場ではあらためて米国経済のファンダメンタルズの強さに対する注目度が高まりやすくなるだろう。

先週 11 日に発表された 7 月の『米求人・労働異動（米雇用動態）調査』によれば、米企業による「求人」の件数と「（自発的）離職」の件数は、またまた過去最高を更新した。事前には「さすがに（ホワイトハウスが対中制裁関税第 1 弾を発動した）7 月は、一時的にも求人や離職の動きが鈍るのでは」との見方もあった。ところが…である。

これだけ強いと、今後の米国における賃上げの動きは一段と加速する可能性が高い。12 月の米追加利上げの可能性も簡単には消えないだろう。（09 月 20 日 11:25）